

「H28 教育活動評価結果」の考察

1 学校運営について

(1) 調理科

・項目ごとに生徒のよい評価で差が大きい。高いレベルで同等になるようにしたい。

(2) 介護福祉科（介護福祉士養成コース・介護員養成コース）

・いじめ・暴力のない仲間づくりを心がけている一方で、先生方への相談につながっていない結果となっている。生徒達は、同世代との人間関係に非常に気を遣いながら生活をしているが、いざというときに誰にも相談できずにいることになるため、生徒の心の動向を見抜き、こちらから声がけしていく必要がある。

(3) 普通科 情報表現コース

・「学校からの通信」については、保護者評価が高めである。学校から送られる文書を積極的に受け取っていることが伺える。

(4) 普通科 デザインアートコース

・どの項目も全体のデータと大差なく、平均的な状況といえる。

(5) 普通科 総合コース

・全体的な傾向は大きくは変わらないが、いくつか全体と違う項目がある。

・「学校の通信便り」については、全体と比べて保護者の評価が高い。やはり学校の様子を知りたがっている保護者が多く、コース通信やクラス通信を読んでいるためだと思う。また各クラスにおいて精力的にクラス通信を発行していることも関係していると思われる。そして生徒は予想以上に便りを家庭に持ち帰っているのかもしれない。

・「学習環境の整備」の生徒の評価が全体より低いのが気にかかる。

・「安全安心の意識」の保護者の評価が全体より高い。信頼関係が高いと思われる。

・「指導助言」の「当てはまる」が保護者の割合が全体より比較的高い。電話連絡や保護者面談を多く実施して、生徒理解を重視していることの表れだと思われる。

・「学校への満足度」の保護者の評価が全体よりかなり高い。入学させて良かったと思っている保護者が多いと思われる。

(6) 普通科 健康スポーツコース

・学校運営に対して「当てはまる」「少し当てはまる」の回答が半数を占めており、高い評価であった。特に「⑤いじめ・暴力の根絶」、「⑦学校への満足度」はとても高かった。逆に低い評価が「⑥相談・助言」の部分だった。保護者が高い評価だったのに対して、生徒の評価は低かった。担任の先生方は生徒の状況をよく把握しクラス運営を行っているが、生徒は教員の動きに対して物足りなさを感じているようだ。個別の対応の充実が必要だと感じた。

・県外生徒も多いということで保護者との連絡手段を考えなければならない。大切なお便りは郵送しているがその他の連絡は生徒を通じての報告になる。HP などを利用して情報発信ができればと考えている。

(7) 募集業務部

- ・昨年と比較して大きな変化は見られないが、学校スローガン実現に向けての取組意識は高い。
- ・「②学校からの通信」については保護者からの評価が昨年度より高くなった。こまめな発信は今後も重要だ。
- ・「⑤いじめ、暴力のない学校づくりへの取組」「⑥相談・助言」の両項目について、教職員の数値がかなり高まった。昨今の社会問題にもなっており、保護者の協力も得ながら教育相談や面談等をタイミングよくおこなっていく必要があると思う。「目と手をかける学校」「面倒見のよい学校」としてこれからも社会に評価される学校を目指したい。

(8) 進路指導部

- ・学校は、スローガンに沿って教育活動を展開しており、さまざまな場面で努力をしているという評価を得た。とりわけ「⑦学校への満足度」の評価が高いのは喜ばしい。

(9) 生活指導部

- ・「⑤いじめ・暴力の根絶」については、保護者の理解度が生徒よりも10%程度低い。また、「わからない」との回答も20%程度ある。保護者の「いじめ」に対する不安の表れと言える。生徒だけでなく、保護者にも安全・安心を発信できるように対応の必要がある。

(10) 総務部

- ・「安全安心の意識」について、教職員の意識にかなりの低下がみられた。生徒および保護者に関しては、昨年度とほぼ同様の回答となっている。震災から月日が経つにつれてそれぞれの意識が薄れていくことが推測される。個人やご家庭または地域など災害に対する意識や備えの再確認を毎年行うことが必要と感じる。
- ・学校として、災害発生時の体制が整ったので、細かな部分について協議し調整していくことが今後の課題と考える。

(11) 保健厚生係

- ・「学習環境の整備」について、生徒全体では約半数が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答している。うち、デザインが10%全体平均を上回っている。生徒については、清掃面のみではなく施設面での整備を希望している者もいるようである。
- ・「いじめ・暴力のない学校づくり」については、生徒全体では75%が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答している。デザインと健スポが10%ほど全体平均を上回っている。保護者全体では、「当てはまる」「少し当てはまる」と回答した割合が約60%と生徒の回答を下回っている。この傾向は、昨年と同じであり、親子の間に会話が少ないのではないかとと思われる。
- ・「相談・助言」については、生徒全体では約45%が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答している。昨年比約5%上回っているが、依然少ない。学校以外のところで相談助言を求めているのではないかと。保護者全体では、約70%が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答し、昨年比で約5%減少している。

2 四つの重点目標について

(1) 調理科

- ・よい評価のレベルが保護者と生徒で違いが大きい。生徒のよい評価も保護者と同等になるようにしたい。

(2) 介護福祉科（介護福祉士養成コース・介護員養成コース）

- ・資格に直結する科目を学んでいながら、検定・資格取得に対する取組が低い結果となった。保護者は、漠然と「資格が取れる」と思っているのに対し、生徒は日頃勉強する中で、資格が取得できるのだろうかという不安を大きく抱いている。また、他の生徒よりも勉強が遅れていると感じる生徒も多いことが背景にあると思われる。
- ・実習やボランティア活動があるため、ルールを守ること、生活マナーについては、常日頃から意識を高く持って生活している。

(3) 普通科 情報表現コース

- ・「⑪主体的・能動的な学習」については、保護者評価が低めである。コースの専門的な科目は実習形式なので、主体的な学習がメインとなっているはずである。しかし、低い理由として考えられることは、生徒が家庭において積極的な姿が見えない、といった部分や、授業自体が主体的になっていないといったことが考えられる。
- ・「⑫検定・資格取得」の評価については、保護者がやや低めである。コースの特性として、この部分が低いことは問題である。生徒には積極的に受けるよう促しつつ、授業も検定に向けて進めている。しかし、本人の頑張りが取得に結びついていない可能性がある。今後は、より取得のための学習体系を作り上げる必要がある。
- ・「⑬キャリア教育」については、生徒の評価が高めである。情報表現コースに入る生徒は全体的に進学への意識が強いため、このような傾向が出たと考えられる。
- ・「⑭進路指導」については、保護者の「分からない」という意見が高い。キャリア教育の意識がありつつも、保護者にまで情報が行き届いていない様子がうかがえる。進路情報を積極的に出していく必要がある。
- ・「⑰校内ルールの遵守」の評価は生徒が高めである。比較的、真面目な生徒が多い傾向があり、意識が高いと思われる。
- ・「⑱部活動の環境整備」については、生徒の評価が低めであった。コンピュータを使用しつつも、教室内のネットワークが不安定なことが多いため、低くなったと考えられる。できる限りの整備が必要だろう。

(4) 普通科 デザインアートコース

- ・「⑫検定・資格取得」「⑬キャリア教育」の生徒、保護者の肯定評価が全体平均よりも高く、専門科目が充実しているコースの特性を表しているといえる。一方、「⑱部活動の環境整備」の保護者のポイントが低く出ており、これは文化部所属生徒が多いことが影響していると思われる。

(5) 普通科 総合コース

- ・全体集計より「当てはまる・少し当てはまる」の割合がやや少ない項目がいくつかある。特に生徒の「主体的・能動的な学習」の割合が全体より低い。授業に対する意識づけがより一層求められているのかもしれない。
- ・「校内ルールの遵守」の「当てはまる・少し当てはまる」は全体より低い。自覚はしているようだ。
- ・各種検定資格は全体とほぼ同様の結果であるが、コースの特徴からするともっと自覚を持ってほしいところであり、啓蒙活動をより強化する必要がある。
- ・部活動に対しての意識はやや低い。活動人数が少ないためであろう。

(6) 普通科 健康スポーツコース

・先生方のお陰で「⑧わかりやすい授業」の項目では高い評価だった。年間計画（シラバス）に沿いながら生徒に寄り添って授業を行っている結果だと思う。授業については問題ないが、授業中の環境に問題があるようだ。基礎力の不足している生徒の個別指導などが必要だと考える。

・検定などに関しては部活動が優先となり、放課後の時間が使用できないため積極的な資格取得には至っていない。検定同様、毎年進路についても生徒の動きが遅いと感じる。部活動優先になってしまうという問題が本コースにはある。

・学校全体で進路決定に向けた取組をさせていただいているが低い評価になってしまった。これは、生徒の進路活動の活用の仕方に問題があると感じている。早期の進路決定に向けた動きに関しては、顧問の理解が必要になってくる。「⑩無遅刻・定時着席」については、生徒と保護者の間に開きがあった。保護者は自分の子供はできていると思っているが、生徒自身はそうは思っていないようだ。ここに関しては生徒自身が改善したいと考えている項目だと評価できる。来年度に向けて生徒と一緒に改善していきたい。部活動を行う環境については、学校に感謝したい。

(7) 募集業務部

・「⑧わかりやすい授業内容」への満足度は、生徒・保護者・教職員とも数値が上がっている。定期考査前に校内で自学自習する光景がよく見られるようになり、よい傾向であるので、引き続き基礎・基本を中心としたわかりやすい授業の展開を心がけたい。「⑨学ぶ姿勢」「⑩主体的な学習」「⑪検定資格取得」については、保護者・教職員に対して生徒自身は改善の余地ありと考えているようであることから、学びの期待に応えられる環境整備を行っていく必要を感じる。生活面では教職員の熱心な取組に理解を示す回答が多く、今後も一丸となって指導を継続したい。

(8) 教務部

・「⑧わかりやすい授業」については、生徒と教員の感じ方にギャップがあるのは昨年と同様であるが、保護者と教員の満足度が近い値になっている。家庭での話、学校からの通信からそう感じるのか、成績を見てそう感じるのかはわからないが、保護者からの一定の理解が得られているのは喜ばしいことだ。しかしながら「授業がわかりやすい」と感じている生徒が30%弱というのは非常に低い数字であり、授業改善が喫緊の課題である。授業力の向上のためにはやはり授業研究が必須であり、その内容を教科で深め、実践し学校全体で共有する機会を持ちたい。

・「⑨学ぶ姿勢・落ち着いた学習環境」に関して、今年度は、授業を受けるにあたって当たり前のことが当たり前にできていない事例が例年より多かった。授業中の問題行動については教科担当者が「学習状況報告書」を提出するが、深刻なケースも見られた。真面目に取り組もうとする大部分の生徒が安心して授業に集中できる環境を整えなくてはならない。学校全体で取り組む重要な問題と考える。

・「⑩主体的・能動的な学習」については、授業力と授業規律がベースになったうえで、⑩の「アクティブラーニング」ということになろう。発話、プレゼン、ペアワーク、グループワークを取り入れたり、ICTを活用する動きが出てきている。今後この動きを促していきたい。

(9) 進路指導部

・保護者から評価は得られていても、実際に学校生活を送っている生徒に浸透していないことが非常に残念である。生徒たちは、検定や資格取得に意欲的に取り組まず、計画的に進路達成に向けての準備を進めていないと自己評価している。進路指導部を中心にしながら、毎日の積み重ねが大切だと伝える方策を出したい。

(10) 生徒指導部

・部活動について、意欲的に参加できた生徒は7割弱であり、15%増えた。科コース間でばらつきがあり、健康スポーツコースが8割を越える一方で調理科・総合コースは6割ちょっとであった。毎週木曜日に「部活動の日」を設定しており。加入率はここ数年8割前後を維持している。部活動を通じてリーダーの養成を取り組んでいきたい。また、科コースの枠を超えての仲間意識を高める重要な場と考えている。

(11) 生活指導部

・「⑩無遅刻・定時着席」について、生徒の達成度は4割に満たないが、保護者の7割が「遅刻・定時着席」は出来ているものと理解している。3割の差異は非常に大きく、学校での生活が十分に保護者へ伝えられていないことが考えられる。遅刻の早期対応により、生徒・保護者ともに自己評価の率が上がるのではないかと考える。

・「⑪校内ルールの遵守」については、「当てはまらない」と回答した生徒が5%程度いる。「あまり当てはまらない」を含めると25%になり、生徒の1/4がルールについて遵守しきれていないことになる。非常に重い数字として捉え、改善に向けて努力する必要がある。

3 学校諸活動について

(1) 調理科

・学科の行事（修学旅行など）は満足度が高いが、それ以外が案外低い。次年度は更に満足度が伸びればと思う。

(2) 介護福祉科（介護福祉士養成コース・介護員養成コース）

・どの項目も半数以上の生徒が満足している結果となっている。実習が多いため、クラス全員が集まる機会を生徒達は非常に大事にしている。各行事ではどの学級も協力して取り組んでいた。

(3) 普通科 情報表現コース

・「⑫コース行事・修学旅行」の評価は、生徒と保護者両方ともやや低めである。生徒の意識が低いと、保護者も様子を見ていないと、積極性が見られないと考えられる。担当やコース全体として、生徒を動かす必要がある。「⑬ボランティア活動の参加」が生徒・保護者両方とも低めである理由も、上記同様と考えられる。

(4) 普通科 デザインアートコース

・どの項目も全体のデータより高くなっている。これはファッションショーや修学旅行などコース行事の満足度が全体的に高いからだと思われる。

(5) 普通科 総合コース

・全体集計より「当てはまる・少し当てはまる」の割合がやや少ない項目がいくつかある。特に行事関係の「当てはまる・少し当てはまる」が全体よりやや低いのは「もっと積極的に参加しなければ」という自分への反省があるのかもしれない。

(6) 普通科 健康スポーツコース

・学校全体の行事については、クラス毎に積極的に参加している様子が見られたが、生徒の満足度はやや足りないと感じた。学校行事というより部活動の活動がメインになっているのが要因として考えられる。

(7) 募集業務部

・合唱とアンサンブルの集いや、科コースの取り組みも披露できる学園祭など、本校の素晴らしい取組を募集の観点でも広く校外にPRしていきたい。

(8) 進路指導部

・学校行事や部活動に積極的に参加することは、自己PRの一助ともなり、望ましい。漫然と毎日過ごすのではなく、ひとつでも「高校生活で頑張ったこと」を答えられる生徒を増やしたい。

(9) 生徒指導部

・学園祭や体育祭、合唱とアンサンブル等行事に意欲的に楽しく参加できた生徒は、昨年7割から大きく減り4割強であった。これは体育祭において、科コース対抗障害物リレーが中止となったためと思われる。生徒会本部や実行委員のアイデアで前年以上の内容を準備しており、この種目を楽しみにしていた生徒も非常に残念であった。次年度は対策を万全にしたい。学園祭では、文化部のステージ発表を中心に内容の濃いものであった。今後も生徒の声を積極的に取り入れ、一体となって行事に取り組める工夫を凝らしていきたい。

・ボランティア活動については、できたと回答した生徒は震災から時間を経るごとに減少していたが、今回は増加に転じ6割に迫った。平成28年は西日本を中心に被害の大きい地震がその都度募金活動を行った。主な活動実績として、4月「熊本地震救援募金」、5月「岩沼市千年希望の丘防潮堤植樹」、10月「鳥取地震救援募金」、10月「東北子ども博覧会(仙台大学等主催)運営ボランティア」があげられる。ボランティア活動を通して奉仕の心を育みたい。

4 高大連携について

(1) 調理科

・数字とは別に、進学する数は以前より俄然増えているので、学科の進学に関する指導は成果が上がっている。

(2) 介護福祉科（介護福祉士養成コース・介護員養成コース）

・大学情報の活用が、生徒・保護者共に非常に低い。介護福祉科の生徒は半数以上が就職希望であること、また、実習を通して様々な専門職と接することもあり、普段から多くの刺激を受けていることも一因と思われる。

(3) 普通科 情報表現コース

・「④仙台大の施設利用」については、保護者評価が低めである。情報が保護者まで渡っていないと考えられる。

(4) 普通科 デザインアートコース

・全体のデータと大差なく、平均的な状況といえる。

(5) 普通科 健康スポーツコース

・スポーツコースということでもっと仙台大学との連携を取りたいと考えていたので、生徒の結果には納得ができる。来年度は仙台大学に協力していただきいろいろな取組をしていきたい。

(6) 募集業務部

・生徒は3割、保護者も5割程度しか仙台大学との関わりを感じていないようだ。高大連携教育と特別推薦入学枠について、継続して発信に力を入れたい。また、運動面以外の交流促進をすすめることもできたら認知度が高まると思われる。さらに、募集の視点では、仙台大学と明成高校での共同広告・共同ホームページ運営等も今後検討すべきと考える。

(7) 進路指導部

・施設利用は運動部の生徒が関わっているが、それも一部である。仙台大学への進学を考えて入学する生徒を対象に、早めに見学会や説明会などを実施してはどうか。自覚を持って高校生活を送れるようになるとよい。

(8) 生徒指導部

・4月開催の「新入生研修合宿」では、例年協力していただいており、好評の仙台大学学生によるレクリエーション指導が日程の都合が合わず連携できなかった。次年度復活し、新しい級友との仲間づくりの一助となることを期待したい。これをきっかけに姉妹校である仙台大学への理解はもちろん、大学生活への憧れから進学を意識する生徒も出てくる。

・10月開催の「東北こども博覧会」では、仙台大学学生とともに運営ボランティアに本校生徒が多数参加した。子どもの世話中心の活動であるが、大学生と一緒に活動することによって、多くのことを学んでいる。

5 家庭生活について

(1) 調理科

・中学時まで学力の代わりに「手に職つけて」と植え付けられ入学する学科のイメージを払拭することで改善されていく。

(2) 介護福祉科（介護福祉士養成コース・介護員養成コース）

・家庭での学習習慣がないようであるが、生徒達は放課後の時間を使い、互いに相談したり教え合う場面が多く、学校で勉強する方が効率的と考える生徒が多いと思われる。中には、土曜日に学校へ登校し勉強する生徒も見られた。

(3) 普通科 情報表現コース

・「㊟家庭学習の習慣」についての評価は、生徒はやや高めだが保護者は低めである。生徒自身は自分なりに頑張っている、という意識であるが、保護者はもっと頑張してほしい、という意識なのではないかと考える。

(4) 普通科 デザインアートコース

・全体のデータと大差なく、平均的な状況といえる。

(5) 普通科 総合コース

・基本的な生活習慣の定着に関する生徒の「当てはまる・少し当てはまる」が、全体集計と昨年ほど差がなく、改善傾向にある。ただし家庭学習に関しては生徒と保護者両方とも全体集計よりかなり低い。家庭での学習習慣の重要性をもっと浸透させたい。

(6) 普通科 健康スポーツコース

・コースの取組で学習ノートを行わせているので学習については思った以上に高い評価だった。高い目標を持ち、生徒個々で自学学習を行っているようだ。生徒の可能性を伸ばす為の取組を考えていきたい。

・「基本的な生活習慣」は、毎日部活動が終わってから帰宅するという繰り返しなので、なかなか規則正しい生活が送れないのが現状だと思う。また、県外生も多いことから家族の関わりというより、仲間との関わりの方が大きいと考えられる。

(7) 募集業務部

・「㉔基本的な生活習慣」は生徒・保護者とも高まったものの、「㉔家庭学習」については昨年とほぼ同様の結果である。保護者の協力もいただきながら、家庭学習の習慣を身につけさせそれぞれの希望進路実現に結びつけたい。

(8) 教務部

・家庭学習の習慣の定着度は低い。知識の定着には家庭での反復練習と教科からの課題の工夫が必須であると考ええる。朝学習の教材利用も考えられる。

(9) 進路指導部

・学年が上がるごとに「まったく勉強しない」が増えている。漢字が書けない、課題に取り組まず期限が守れないなどの問題点は、進路決定においても応募書類の書き方だけでなく提出が遅れるという事態を引き起こす。「㉗基本的な生活習慣」も評価が低いので、当たり前を当たり前でできるように粘り強く指導する必要がある。

(10) 生活指導部

・「㉗基本的な生活習慣」については、25%の生徒しか「少し当てはまる」に回答しておらず、基本的な生活習慣に対する意識の低さが顕著である。「当てはまらない」と回答した生徒も25%程度おり、深刻な状況と推察できる。スマートフォンやSNSの問題も関わっているのではないかと考えられる。

(11) 保健厚生係

・「基本的な生活習慣」について、生徒全体では約28%が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答しており、昨年度の60%から大きく下回っている。このことは、どの科コースでも同じような傾向である。保護者全体でも、約45%が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答しており、昨年度85%から大きく減少している。家族の一員としての役割実践という部分が希薄になっているのではないかと考えられる。